

今後の検討の進め方について

令和2年10月19日

検討の進め方

第3回と第4回の検討会では、それぞれ主に次の内容をご検討いただきたい。

第3回検討会（10/19）

<発表条件>

- 発表地域単位（例：都道府県単位？）
- 発表タイミング（例：前日と当日の2回？）
- 発表基準（例：暑さ指数3.3以上？）

<電文①>

- 全体構成
- 暑さ指数や日最高気温を含めるかどうか
- 名称（色）

<今夏の検証①>

- 概要・速報

第4回検討会（12/2）

<電文②>

- 名称
- 呼びかけ文
- 発表条件についての説明文

<情報の周知・活用>

- 情報をどのように周知するか（例：色）
- 情報の発表をどのように活用すべきか（例：自治体や教育現場での活用）

<今夏の検証②>

- 総括・評価

中間報告書(6/1公表)で整理した課題への対応について

第3回・第4回のいずれの検討会で検討を行うか



(ア) 発表概要(運用方法等)について	(i) アラートの発表基準	季節(梅雨明けの時期等)や地域特性(例えば北海道と沖縄の差等)、暑さの持続時間/日数/変化率等を考慮した指標については、今後の検討課題とする。	第3回
		アラートの対象とする地域単位について、都道府県単位よりも細かい単位を設定することについては、その実現可能性や情報の受け手に対する効果も加味し今後の検討課題とする。	第3回
		適中率や補足率を上げるための方法については、引き続き検討する。	第3回
	(ii) アラート発表のタイミング	アラートを発表するタイミング(先行実施では、前日17時と当日朝5時)については、先行実施を踏まえ引き続き検討する。	第3回
		当日の実況値に基づくアラートの発表については、その必要性も含め、予防対策の効果を確かめたうえで今後の検討課題とする。	第3回
	(iii) アラートを発表する際に呼びかける内容	アラートを発表する際に呼びかける内容については、先行実施の検証を踏まえ、令和3年度に向けて引き続き検討する。	第4回
高齢者や子供、障害者等の熱中症のリスクが高い方等に対する配慮については、今後の検討課題とする。		第4回	
(iv) 情報の伝達方法・経路について	名称や色づかい等については、情報の受け手である国民が理解しやすいものとなるよう、令和3年度からの全国での本格実施に向け、引き続き検討する。	第3回 第4回	
	アラートの伝達については、各種団体に協力を呼びかけ、メールやアプリ、ホームページ、デジタルサイネージ等の様々な媒体を活用することが望ましい。具体的な方法については引き続き検討する。	第4回	
(イ) 情報発表時の国民の日常生活・運動における行動例について(どのような国民の予防対応行動につなげるか)	アラートが発表された際に国民がどのような予防対応行動をとるべきかに関する情報の内容や周知方法については、令和3年度の本格実施に向けて、先行実施も踏まえ、関係省庁や自治体等とも相談をしながら、引き続き検討する必要がある。	第4回	